

祖母の思い胸に デモに参加

葉劑師

7/30
7月1日

(兵庫県 67)

安全保障関連法案に反対し「アベ政治を許さない」のメッセージを各地で掲げた18日のデモに、神戸市で参加した。学生時代、70年安保のデモは一度経験したが、社会人になってからは初めてだ。

私の2人の祖母は、息子3人を兵として戦争で亡くしている。ミッドウェー海戦で息子を失った父方の祖母は、亡くなる直前まで、うわごとで息子の名前を呼んでいた。母方の祖母は「選挙では、戦争に反対した政党にいられている」と言っていた。祖母たちは、戦争はするなど言い残したと思う。

法案は、アメリカがやってきた

戦争の一部を日本が肩代わりし、戦争する国になるものだ。自衛隊員に戦死者が出れば退職者が多くなり、補充できなければ徴兵制へと進むであろう。私の孫2人を含め、今の子どもたちが兵隊になる可能性がある。そのような世の中にしてはならないと強く思う。

法案は衆議院を通過したが、諦めてはならない。参議院の審議があり、選挙もある。成立したとしても、政権を代えて廃止にもできる。首相に近い参院議員が「法案が成立すれば国民は忘れる」と言ったというが、私は決して忘れな

い。今後も行動を続けていく。

平和国家のブランド 大切に

大学教員

(千葉県 56)

8月の1カ月間、中東・パレスチナ自治区のベイトイン村で遺跡の発掘調査を予定している。自治政府観光・遺跡省との共同プロジェクトで、今年で4年目になる。この間、日本チームと自治政府、村長、村人との協力関係は大変良好だった。

背景には、教育施設や社会インフラの整備、観光地の印刷物作製などといった、これまでの日本の国としての貢献がある。パレスチナの人々の日本への評価と信頼は厚い。その「恩恵」を肌で感じてきた。発掘現場の地権者は、私たちの発

掘を了承する際、日本政府

が村の学校建設へ貢献してくれたと開口一番語ってくれた。日本は平和を愛し、隣人に必要な支援や役割を担ってきた国。紛争の多いパレスチナの地に日本のそんな好印象が定着している。

今後それは集団的自衛権の行使を容認する安全保障法制の成立によって、目に見える形で変容していくのだろうか。湾岸戦争時に日本が戦費を支出したという理由で、一度だけパレスチナ人から投石されたことを思い出す。だが、その後も努力し、平和国家としてのブランドが築かれてきた。その価値は大きいはずだ。